

インフォメーション

サポセンスタッフから①

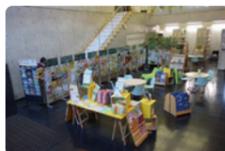
サポセンってどんなところ？まずは、中に入ってみてください！

仙台の街中にある、一見ふつうのオフィスビル。サポセンは、「自分たちの住むまちを、もっと良くしたい」そんな市民の自発的な活動を応援する施設です。現在活動中の方だけでなく、これから活動を始めたいと思っている方、ちょっと興味はあるんだけど…という方もぜひご活用ください。

一步、中に入れば…

情報の宝庫。新たな発見が待っています！

サポセン1階の情報サロンでは、市民活動団体のみなさんから受け付けたイベントチラシやニュースレターなど、様々な情報を見ることができ、お持ち帰りもできます。仙台のまちにどんな人、どんな団体がいて、どんなことをやっているのか。情報収集ができますよ。



一步、踏み出す…

まずは、「参加者」になってみてください！

サポセンでは、いろいろなイベントや講座も開催しています。肩書きも世代も越えて交流し学び合う中で、何かをはじめのキッカケをつかんだり、モヤモヤしていた想いがカタチになっていきますよ。チラシの他、ホームページやツイッターで告知しますので、チェックしてみてください。困ったことや分からないことがあったら、遠慮なくサポセンスタッフにお尋ねくださいね。(菅野)

サポセンスタッフから②

祝・ぱれっと200号！

サポセンニュースレター「ぱれっと」は、2016年4月号で200号を迎えます。

サポセンは、1999年6月にオープンしました。「ぱれっと」は、同年8月以降、毎月1回発行してきました。市民の皆さんから募集して決めた愛称「ぱれっと」は、いろいろな色を混ぜ合わせて新しい色を作り出していく道具パレットになぞらえたものです。

16年8ヶ月の間に私たちのまち仙台でも、様々な出来事がありました。東日本大震災以降は、NPOなどの支援団体に限らず市民一人ひとりが「自分にできること」を実践してきました。NPOや市民活動のあり方やイメージが変わったことで、市民活動に関する情報の発信先や必要な内容も変わり、「ぱれっと」も変化し続けてきました。これからも、仙台の多様な人、活動という色「個性」に光をあて、新たな出会いや活動が生まれるものをつくっていきます。

発行にあたり、これまでご協力いただいた皆様、ご愛読いただいた皆様、今初めてご覧いただいている皆様に感謝申し上げます。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。(松村)

▶サポセン1階にて4月末まで、「ぱれっと」創刊号から200号までを展示中!お見逃しなく!

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日：4月13日(水)・4月27日(水)

開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00
	日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog] http://blog.canpan.info/fukkuu/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

今月の表紙

「発行日、自分がまだ仙台にいるのかは分からない…。心配しながらも、「転勤族ボトル」とWE基地認定店ステッカーを手に、笑顔で活動をビールする大山さんです。

情報ボランティア@仙台の学生記者が取材しています!
https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16

- ▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
- ▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2016年4月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 小野真璃子 松村 翔子
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 4

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2016 No.200

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

WE SENDAI 転勤族チーム
おおやま むねゆき
代表 大山宗之 さん

「転勤族の街」を
仙台のブランドに

仕事の都合で市外から移り住んだ人が多い「転勤族の街」という特徴を、仙台の強みにしようと励んでいます。ビジターでも気軽に入れる飲食店を「基地」に認定したり、店の協力を得て「転勤族ボトル」と銘打った酒瓶をキープして訪れた転勤族と共有したり。「見知らぬ街が身近になる仕掛けです」。大山宗之さん(27)は遊び心あふれる企画の意図を、こう説明します。

大山さん自身、転勤族です。転入間もない2014年夏、仙台のことをもっと知ろうと、地下鉄東西線沿線の活性化策などを考える市の講座「WE SCHOOL」に参加。転勤族の参加者仲間と「社外につながりがない」「もっと地域に溶け込みたい」などと悩みを打ち明け合う中で、チームは産声を上げました。

目指すのは、仙台になじみの店も友達もたくさん持った「転勤族らしくない転勤族」。『「転勤するなら仙台」と言われるぐらい、転勤族を仙台のブランドにしたい。地元民に勝るとも劣らぬ愛を、仙台に注ぎます。

取材・文：及川愛結(宮城学院女子大学3年)
高橋直道(東北大学2年)



特集

障がい者の「働く」を

支える希望の灯

—複合機清掃作業員認定教育事業—

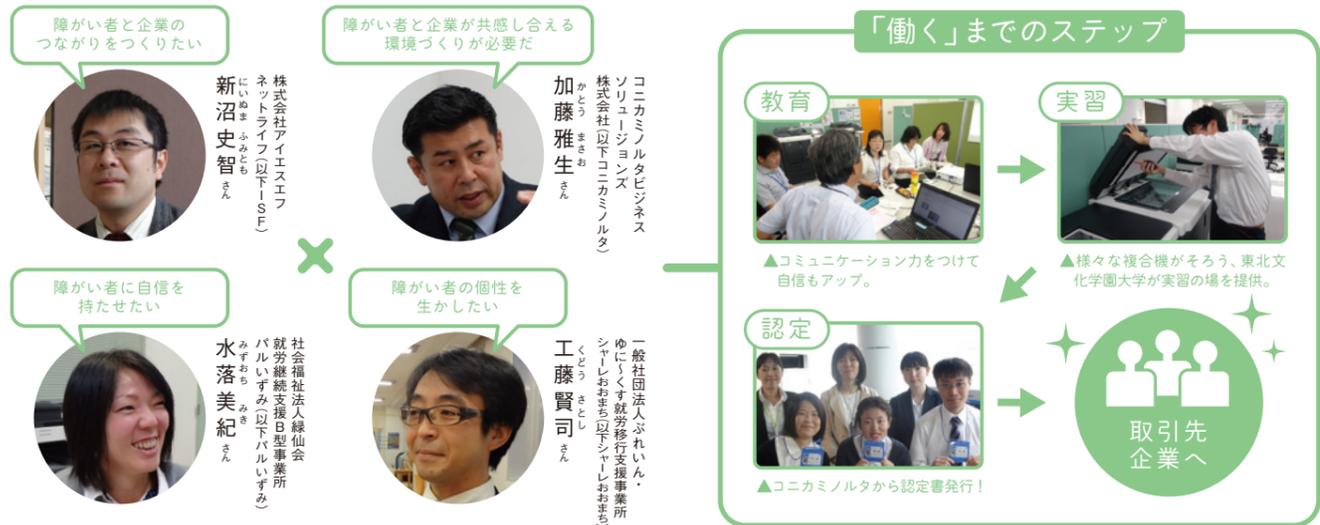
WE SENDAI 転勤族チーム

連絡先 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 レターケースNO.79
HP http://we-tenkinzoku.sunnyday.jp/ Mail we.tenkinzoku@gmail.com Facebook WE SENDAI 転勤族

結成は2014年10月。大山さんと田代智志さんの代表2人で運営しています。地下鉄東西線関連の講座での出会いが出発点のため、仕掛ける企画も東西線沿線を舞台に、転勤族が地域により親しめる内容を目指しています。今後、チームの活動の舞台に町内会を見据えます。地域とのつながりが希薄になりやすい転勤族。有事の際、町内会は心強い存在です。一方、転勤族が既存の町内会に新たな風を吹かせるかもしれません…。ヨソモノ視点で、地域との新たな関わり方を提案していきます。

障がい者の「働く」を支える希望の灯 —複合機清掃作業員認定教育事業—

厚生労働省によれば、平成27年6月現在、職員50人以上規模の民間企業における障がい者の雇用率は1.88%。障害者雇用促進法で義務付けられている障がい者の雇用率は、2.0%です。その雇用率を達成する企業は約47.2%で、過去最高となりました。ただし、障がい者の立場からすると自分の個性を生かした職業に就くことや仕事を続けることが難しいのが現状です。そんな課題を解決するために、障がい者と企業双方の理解を深める取り組みを紹介します。



障がい者と企業のつながりをつくりたい

株式会社アイエスエフ ネットライフ(以下ISF) **新沼史智**さん

障がい者と企業が共感し合える環境づくりが必要だ

コニカミノルタビジネス ソリューションズ 株式会社(以下コニカミノルタ) **加藤雅生**さん

障がい者に自信を持たせたい

社会福祉法人緑仙会 就業継続支援B型事業所 **水落美紀**さん

障がい者の個性を生かしたい

一般社団法人ふれいん・ゆに〜くす就労移行支援事業所 シャーレおおまち(以下シャーレおおまち) **工藤賢司**さん

障がい者と企業をつなぎ、雇用につなげたい

「障がいがあっても働きたい」「働きはじめたけど続けられない」。障がいを持つ方の就労を支援しているISFの新沼史智さんは、このような障がい者の声を多く聞いてきました。雇用の場を増やすには、働く側が労働に値する能力をつけることと同時に、障がい者と企業が交流し理解する機会が必要です。新沼さんは、複合機メーカーのコニカミノルタと障がい者が通う福祉施設とともに、複合機清掃作業を障がい者の仕事として確立し運用できる仕組みづくりを行っています。

ISF、シャーレおおまち、バルいずみなどの福祉施設に通う障がい者は、複合機清掃作業員として仕事をするまでに、コニカミノルタで3ヶ月間、コピー複合機の清掃技術やビジネスマナー、コミュニケーション能力を学びます。その後、東北文化学園大学の学内に配備されている現場の機械で実践的な実習を行います。最終的に認定試験を受け、合格した人が認定清掃員として認定され清掃活動に従事します。

ISFの新沼さんは、「免許証を持ってない障がい者が顔写真入りの認定証を持つことで、より大きな自信をつけることができます」。さ

らに、認定までコミュニケーションを重ねることで、「企業側も偏見なく障がい者と接することができるようになる」と障がい者と企業との間につながりができ、理解が進むと強調します。

自信をもって働ける技術と知識を身につける

2012年6月にISFとコニカミノルタの間で構想が立ち上がり、それぞれ実現に向けて奔走。2013年7月、仙台市中間的創出事業に採択され、「複合機清掃作業員認定教育事業」として本格的にスタートしました。同年10月に最初の認定者が生まれてから、現在まで27名の障がい者が認定試験に合格しました。認定を受けた清掃員が33の一般企業に派遣され、約2年間でのべ500台を超えるコピー複合機の清掃実務を行っています。そのうちの6名がコニカミノルタに準社員として採用され、清掃指導員として活躍しています。

清掃員を引率し企業を訪問しているバルいずみ水落美紀さんは「障がい者が一般企業を訪問して行う作業実践体験が大きな自信へとつながっている」とプログラムの利点を話し、より実践状況を想定した



- 連絡先
- 株式会社アイエスエフネットライフ仙台第1事業所 〒984-0051 仙台市若林区新寺1丁目4-5 NORTHPIAビル8階 TEL 022-742-3660 FAX 022-742-3661 HP <http://www.isfnetlife.com>
 - コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社東北支店 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目2-25仙台NSビル2階 TEL 022-722-2265 FAX 022-722-2224 HP <http://bj.konicaminolta.jp>
 - 一般社団法人ふれいん・ゆに〜くすシャーレおおまち 〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目6-27 4階 TEL 022-263-1402 FAX 022-748-7718 Mail schale_omachi@yahoo.jp HP <http://brainiques.com>
 - 社会福祉法人緑仙会バルいずみ 〒981-3131 仙台市泉区七北田字大沢鳥谷ヶ沢8-11 TEL 022-377-4802 FAX 022-377-3762 Mail pal-izumi@viola.ocn.ne.jp HP <http://www.ryokusenkaei.org/>

独自の訓練に余念がありません。

新たな就労の取組みへとステップアップ

シャーレおおまちの工藤賢司さんは、「研修プログラムを障がい者の個性に応じて改善していけば、より負担なく技術を習得できる」と改善点をあげます。一方で、「認定証のブランド力がつけば雇用にもつながる」と期待も示します。コニカミノルタの加藤雅生さんは、「企業として意識しているのは、地域の方々との共存」と、共にこの地域に生きる者同士、先入観を取り払い、力を出し合うことの大切さを語ります。現在、プログラムを応用して異業種への働きかけを模索中。ノウハウの提供も視野に入れた次へのステップを見据えています。

プログラムを利用する障がい者の家族は、この取り組みを「希望の灯」と期待を膨らませます。障がい者にとって「働く」とは、社会との関わりを持つためにも大きな意義があります。障がいのある人もない人も共感しあえる社会をつくりあげる第一歩として、新しい協働のモデルが軌道に乗り始めています。

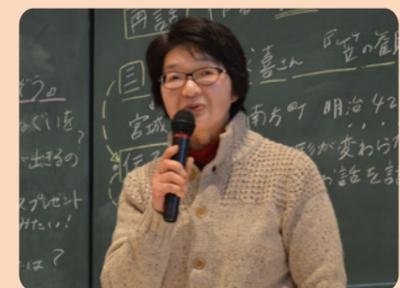
(取材・文 大橋年男)

今と昔を語り継ぐ

市民ライター 大林紅子

むかしむかしあるところに…という耳慣れた語り出しに、今日はどんなお話がはじまるんだろう、とワクワクした子ども時代を思い出しませんか? 「みやぎ民話の会」では40年以上前から語り継がれた民話を記録し、次の世代へと伝えていく活動を行っています。

方言を交えた民話には、いつ聞いたのかも思い出せないけれど心の奥に残る懐かしい記憶があります。「口から耳へと語り継がれてきたお話には、生きてきた人々の思いが語りこめられているのではないのでしょうか」と会員の小田嶋利江さん。「そうした話を伝えてきた一人一人をお訪ねしてその暮らしの中で話を聞かせていただくことを『探訪』、聞いた話をわが身をくぐらせて再び語るところを『再話』と私たちは呼んでいます」。



▲メディアトークと協働で行うプロジェクト「民話 ゆうわ座」で語る小田嶋さん

現在、私も「3.11後の定点観測写真アーカイブ・プロジェクト」という活動に参加しています。個々に撮影した画像も撮影者以外の方の目というフィルターを通すことで新しい事実が見えてきます。

当時の撮影者の気持ちや現場の状況等の時代背景も併せて語り継いで行くことで、今後それぞれの方が震災を改めて考えるきっかけになります。私はそれもまたみやぎ民話の会の活動に共通する「再話」であり「探訪」なのではないか、と感じました。

- 連絡先
- みやぎ民話の会
 - TEL 022-282-4074 (小田嶋)
 - Mail saras919@soleil.ocn.ne.jp

お役立ち本 初歩的な疑問から答える「NPOの教科書」

著者：乙武洋匡・佐藤大吾 / 出版社：日経BP社

社会の課題解決のため活動を始めたいと思っている人は増えていますが、まだまだNPOのことがよく分からないという声も多く聞きます。初歩的な疑問からNPOを取り巻く社会のしくみ、収入源や雇用問題などNPOの専門的なことまで、分かりやすく理解が進む内容です。NPO初心者乙武洋匡さんの質問に、業界17年の佐藤大吾さんが一つひとつ答えます。社会の課題に挑む人たちにお薦めしたい一冊です。



もったいない市

環境に優しいフリーマーケット「リユースマーケット」に参加しよう!

もったいない市は、一度使われたものを出店するフリーマーケット形式のイベント。主催するACT53仙台は、ごみを出し続ける暮らしを見直し、買物行動を変える活動をしています。参加して新しい消費のしかたを考えてみませんか?

日時：4月29日(金・祝)午前10時～午後3時
場所：勾当台公園市民広場 出店料：3000円 参加締め切り：4月20日(水)
問い合わせ：Mail: act53sendainakama@yahoo.co.jp TEL: 070-5322-2976



ここチェック 複合機清掃の実習訓練に協力 ～東北文化学園大学～

JR仙山線国見駅前に、キャンパスがあります。大学内の5つの校舎に設置してある30台以上のコピー機を活用し実習の場を提供。様々な機種があること、いろいろな場面を想定することができることから、清掃実習生がスキルを身につけるには最適な場所となっています。「働きたい」という障がい者の願いが叶うよう、就労へのステップアップとして積極的に関わっています。

●連絡先 〒981-0943 仙台市青葉区国見6丁目45-1
TEL 022-233-3310(代表) HP <http://www.tbgu.ac.jp/>